

税金は財源ではなく“景気の調整弁”

税金が財源じゃないのなら無税国家にできるってこと？



税金は景気を調整するために必要なのよ。景気の良い時は増税、景気の悪い時は減税して、物価や需要のバランスをとることが本来の税金の役割なの。でも、国民が疲弊している今は、徹底的に減税する必要があるし、消費税は永久に廃止でいいわ！



生活必需品にもかかる消費税は、低所得者ほど負担が重くなって、格差拡大の原因になっているの。



収入のほぼ全てが生活必需品に消える…消費税はもう無理…

本当の財源は供給力

本当の財源は、人がモノを造ったり、サービスを提供したりできる能力、つまり供給力です。供給力に見合った分だけ、お金を発行できるのです。



日本に借金問題はありませぬ

自国でお金が発行できる政府に、税金で財源確保する必要はないのです

お金は無から生まれている 国債は通貨発行だ！

昔と違う現代の貨幣システム

昔は「金本位制度」といい、政府が持つ「金（ゴールド）」の保有量と見合った分しか通貨を発行できませんでした。しかし現代は「供給力」に見合った量の通貨を発行しています。これを「管理通貨制度」といいます。「金」ではなく「信用」を担保に無からお金を発行しています。これを「信用創造」といいます。

• お金の生まれ方 昔と今

昔

金の保有量に見合った分

今

供給力に見合った分 (生産できる量など)



国債発行する事で国全体のお金が増え民間企業も、取引先も業績アップ！その従業員が買い物や外食をすれば、そのお店が儲かる。そのまた従業員が買い物すれば…というように、世の中にお金が回っていきます。→経済拡大

日銀は政府の持ち物のような存在です。ですから、国債を返済するという事は、政府が政府からお金を借り、政府が政府に利息を付けて返すようなものです。つまり、国債は返済の必要はないのです。

国債は名目上は政府の借金（負債）ですが、単なる通貨発行で、実質的に返済の必要はありません

デフレとインフレでは、有効な対策が真逆です

デフレ（不況）とは…

- 需要より供給が多い状態
- 世の中にお金が無く

物価下落

モノが売れない

物が売れないから設備投資できない

資金がなくなる

悪循環…経済縮小

倒産・リストラが起こる

技術が廃れる

給料が下がる

失業者が増える

お金の無いから物が買えない

インフレ（好景気）とは…

- 供給より需要が多い状態
- 世の中にお金があり

物価上昇

作ればどんどん売れる

需要が見込めるから設備投資ができる

設備投資で技術向上

売れるから増産する

雇用を増やす

好循環！経済拡大

欲しい物が買える

給料が上がる

有効な対策

デフレ時

- 積極財政 (国民の為に お金を使う)
- 公共投資
- 公的雇用の拡大
- 減税で需要を押し上げる

インフレ時

- 緊縮財政 (国民の為に お金を使わない)
- 政府支出カット
- 増税で需要を縮小

最近では、所得が下がっているのに物価が上がる最悪の現象が起きています。デフレの時にインフレ対策をやり続けた日本政府！デフレ脱却できないのは当たり前

今必要なのは、増税に耐える事ではなく、人や産業を守る事

日本は多額の国債を発行できる国です。それは日本には高い供給力があるからです。財政出動で景気が良くなり需要が高まっても、すぐに増産体制に入れるため、過度なインフレが起こりにくいのです。

しかし、長引くデフレで倒産が続き、日本の供給力は落ちてきています。日本でモノを作れなくなった時、本当の財政破綻が起こります。将来世代にツケを回さないためには、供給力が高いうちに、どんどん財政出動して、人や産業を守ることが何よりも大切なのです。

